





第2図 北条地域の地質

層群), 白亜紀後期の火山岩類(有馬層群)及び貫入岩類からなります。広峰層群は流紋岩溶結凝灰岩, 有馬層群は主に流紋岩質の火砕岩及び溶岩からなり一部安山岩質火山岩類を含みます。貫入岩類は, 播磨花崗岩類と岩脈類からなります。

新生代の地層は, 始新世後期~漸新世前期の神戸

層群と第四紀の大阪層群・段丘地積物・沖積層に区分されます。神戸層群は, 下部に一部海成堆積物を含む以外は, 主に砂岩・礫岩・泥岩からなる河川, 湖, 扇状地の堆積物からなり, 凝灰岩を多く含みます。大阪層群は, 広く大阪周辺地域に分布する鮮新世から更新世中期の湖~河成及びデルタ堆積物です



第3図 5万分の1地質図幅「北条」.

が、本地域にはその上部の主に扇状地堆積物からなる礫層が分布します。更新世中期～後期の段丘堆積物は特に加古川沿いに広く分布し、主に礫層からなります。

本地域は山崎断層系の東部及び六甲山地の北西方

に位置するため、活構造としては本地域中央部に活断層(琵琶甲断層)が、本地域東部には六甲山地の隆起に伴う段丘面の北西方向への傾動が認められます。ただし、琵琶甲断層についてはここ10数万年ぐらい活動した証拠は得られていません。